西多摩医師会報

創刊　昭和47年7月　　第350号　平成14年2月

『バラ』　稲垣壮太郎

目　次

		頁
1）シェーナの夜	堤　次雄	2
2）私の一冊 ある明治人の記録	川崎健一郎	4
3）文芸随筆諸事百般 短歌「迎春」	鹿野純　一	4
4）新年賀詞交歓会開催	広報部	5
5）公立阿伎留病院外来部門診療担当医表	広報部	8
6）各部だより 第１回青梅地区痴呆セミナー	学術部	9
7）地区だより 羽村地区	横内正利	11
8）理事会報告	広報部	11
9）会員通知・医師会の動き	事務局	13
10）お知らせ	事務局	14
11）表紙のことば	稲垣壮太郎	15
12）あとがき	石井好明	15

新アドレス http://www.nishitama.tokyo.med.or.jp/

『シェーナの夜』

堤　次雄

ミラノ中央駅からフィレンツェ行きの特急列車に乗ったが途中、ボローニャ駅に止まるだけで、約3時間でフィレンツェに到着した。

翌朝、ローカル列車で立ったが、約2時間でシェーナに着いた。駅前の道路の向いは崖になっていてタクシー乗場があるだけの寂しい風景だった。タクシーは崖沿いに走り、少し行くと古い石造の家並みが見えてきた。擦り減った敷石の狭い道を、がたごとと震動しながら、右に曲り、左に折れ、とまるで迷路を走っているようだった。

シェーナは丘陵の上に広がる都市で、市庁舎前の夏の競馬で有名なカンポ広場も斜面になっていて、これでは馬もさぞ走りにくかろう、と思った。この都市は昔から裕福で芸術の盛んな文化的な都市国家だったが、16世紀の中頃に隣国、フィレンツェのメディチ家の勢いに飲み込まれ、トスカーナ公国に組入れられた。私達はホテルから少し上った曲り角で、ノンナ・ジーナ（ジーナお婆さん）という名の食堂を見つけそこで夕食をとることにした。白い前垂れをつけ、ジーパン姿の若いウェーターが私達を壁側のテーブルに案内した。隣のテーブルでは二人の中年の男がワインをちびりちびりやっていた。隣席との間が20cmくらいしかない。私達は「今晩は」と挨拶した。ウェーターの「お飲みものは？」に私は、地ワインの赤を注文した。

彼は、「キャンティ・○○でよいですか」と聞いた。隣の男は私達の方を向いて、それがいいですよ、という風な顔で頷くのだった。

キャンティはこの地方の名前で、日本でよく知られている、キャンティ・クラッシコはこの地方の限られたぶどう畠でとれたワインをいうそうである。ウェーターが持ってきたワインは、丸いボトルの腰から下は藁づと姿で気取らない田舎の良さを感じさせた。

料理は小牛の薄切り肉をオリーブ油で炒めたシンプルなもの、野菜の料理は、白隠元豆。腕豆の小球。茄子をぐたぐたに煮こんだもので我が揺れ歯には何とも好都合であった。

それにしても異国で茄子の煮物に会うなんてなぁ。と妙に懐かしい気持ちになった。

郷土料理、田舎のお婆ちゃん料理とでもいうのだろうか。今にも、「どう、旨いかね」とジーナ婆さんが出てきそうな気がしたが、ノンナ・ジーナの姿を見ることはなかった。藁づとの赤ワインとお婆さん料理はとてもよく合って美味であった。

隣の男が、「シニョーラ達はどこから来たのですか」と聞いた。妻が、「昨日、フィレンツェから来たんですよ」と答えると、「僕達はフィレンツェ生れで彼とは幼な友達です」と言った。飲み食いが進むうちに、「僕はアントニオ」「わたしはシルバーノと言います」自己紹介に発展した。アントニオが「ツツジィさん、キャンティは旨いですか」と聞いたが私には、ツツ爺さんと聞こえたから、「ワインは旨いけど、ヂィ、じゃなくて、ミ、と、ミに力を入れて訂正したのだった。アントニオはよく喋る男だったが、シルバーノは反対に、口数も少なく絶えず笑みを浮かべ、アントニオの喋りに「そうだな」と頷く静かな男だった。

妻が、「フィレンツェのドゥオーモは美しいし、街全体が博物館みたいで素晴らしいですね」と誉めた。

ドゥオーモの外壁は、桃、白、緑色の大理石のレースの装飾で被われたように繊細で、赤い量感のある円蓋との調和は見事、しかも、堂々とした建造物で、当時の建築家や職

人の技術の高さに驚いたのだった。また、レオナルドやミケランジェロをはじめ昔の多くの芸術家達の作品が美術館や教会に鑑賞疲れで肩がこるほどである。更に、グッチ、ルイ・ヴィトンなどの多くの有名ブランド店もあるのだから、この街が観光客に大人気なのがよくわかった。

アントニオは、妻のドゥオーモや街の感想に頷いていたが、急に、「ノッ・ノッ」僕は大理石には飽き飽きですよ。僕の回りは固い石ばっかり、家の中も石だらけで、時には柔かい物に囲まれて生活したいです。「な、シルバーノ、そうだろう」シルバーノは、「全くそのとおりだ」と頷いた。私達、日本人が木造の家に住んでいるのを意識してのお世辞なのかわからないが、彼等の気持ちのどこかにはそんな思いがあるのかもしれない。分かる気もするな、と妻と話した。アントニオは「シニョーラ、ニホンてニホン語で何と言うんですか」と聞いた。妻はとまどいながら、「それどういうこと？。ニホンはずっと日本語だし、昔から日本語です」彼も少し酔っ払ってきたようだ。彼は、私に小グラスを渡して黄色のラベルの瓶から食後酒をついでくれた。

きついがさっぱりした味だった。多分、ぶどうの搾り粕を蒸留したグラッパという焼酎だと思う。アントニオはチーズを持ってきたウェーターに「さっき会ったのにさ、もう、こんな友達になったんだ。嬉しいよ」興奮気味に言った。ウェーターは、「よかったですね、皆さん大したもんだ」と驚いた顔をして私達の方にも顔を向けた。私達にしても良い雰囲気で楽しかった。アントニオはまたグラッパをついでくれた。私は、「ヴォーノ、（旨い）けど強いねぇ」と彼等と乾杯した。彼の「アルコール分40度」の声を聞いた途端、私の脳の周りを白い千切れ雲のようなものが、ふわふわと回りだした。アントニオの口をぱくつかせている顔が私の顔にぐうんと近づいたり、すっと遠くに離れたりを繰り返すのだった。「ここいらで引き上げましょうよ。明朝はサンジミニャーノに行くのだから」妻が私の袖を引っぱった。いい酔い心地だ。私はまだシェーナの夜を終らせたくなかった。もう少し彼等と時を過したかったのだった。

再び袖を引かれて、仕方なしに立ち上ったが腰がふらつくのだった。古女房の感は鋭い。やはり引き上げの潮時だったのである。

若し、彼等との楽しい時を延ばしていればだ、私は、ノンナ・ジーナの床の上に泥酔沈没し、日本老人としての恥を晒し、悔いを残すことになったかもしれなかつた。

外に出た。足がふらつく。両側の家の窓の薄い明りも、敷石の道も小さく揺れていた。

私は家の外壁に左手を当てて体を支えながら、妻の後を少し離れ黙ってゆっくり歩いたのだった。

（H13. 9 イタリアの旅から）

カンポ広場

私の一冊

「ある明治人の記録」（中公新書）

川　崎　健一郎

誠に地味で目立たない題名である。だから本屋に立ち寄ってもつい見過してしまいそうな本である。しかしその内容は群書を圧するものがあると思う。

本書は、会津の上級藩士の５男として生まれた柴　五郎氏が10才の時に会津戦争（戊辰の役）に遭遇し、祖母、母、姉妹は自刃したが、五郎氏は、柴家の血筋を絶やさぬために生き延びよといわれ、筆舌に尽くし難い苦難の少年時代を経て、朝敵の汚名を被せられた会津藩の人間でありながら、遂には陸軍大将、軍事参議官にまでなり、奇しくも太平洋戦争終結の年（昭和20年12月13日）に87才の生涯を閉じた柴氏の実録である。氏はこの実録を菩提寺・恵倫寺に納め門外不出とする意向であったが、本書の編著者である石光真人氏が特に許しを得て刊行したものである。私は柴氏が極限ともいえる苛酷な状況下で耐えぬき、生きぬいた強靭な精神力に畏敬の念を禁じ得ないし、また、いわゆる革命なるものが、いかに理不尽、残酷なものであるかを思い知らされたのである。

それでは、柴氏の実録の書き出しの部分を紹介してみよう。

「いくたびか筆とれども、胸塞がり涙さきだちて綴るにたえず、むなしく年を過して齢すでに八十路を越えたり。

多摩河畔の草舎に陰棲すること久しく、巷間に出づることまれなり。粗衣老躯を包むにたり、草木余生を養うにあまる。ありがたきことなれど、故郷の山河を偲び、過ぎし日を想えば、心安からず、老残の身の迷いならんと自ら叱咤すれど、懊悩流涕やむことなし。

時移りて薩長の狼藉者も、いまは苔むす墓石のもとに眠りてすでに久し。恨みても甲斐なき繰言なれど、ああ、いまは恨むにあらず、怒るにあらず、ただ口惜しきことかぎりなく、心を悟道に託すること能わざるなり。」

後まだまだ続くのだが以下は省略させていただこう。

ところで、私は明治維新については特に異論を唱えはしないが、越後長岡藩や会津藩に対しての薩・長・土の藩士たちの行為には大変心に引っ掛かるものがあり、７～８年程前に白虎隊士の墓に詣でた時に涙を流したことのある私は、今回も本書を読み進むうちに、いくたびか目頭を熱くしたのだった。

繰り返し何度でも読みたい本である。

文芸随筆諸事百般

迎春

鹿野純一

年賀状一人一人の状況を
　しのびて書きし高齢友人

大晦日人気番組歌合戦
　なつかしき歌全く聞かれず

初詣で熊川神社は朝早く
　見知らぬ人と年賀をかわす

敬愛の女流歌人に白酒を
　送られ元旦気分に酔いぬ

今は亡き同窓生の夫人より
　年賀貰いてすき間風吹く

孫達と正月の唄調子取り
　皆歌わずわれ一人のみ

多摩川の歴史の流れは永久に
　土手の草木は寒さに耐える

平成14年
「西多摩医師会新年賀詞交歓会」

1月19日（土）午後6時より恒例の西多摩医師会主催の「新年賀詞交歓会」が青梅市福祉センター「ふよう」で開催された。

ご来賓は医師会報12月号に掲載された方々のうち25名が出席された。医師会側からは新入会員も含めて56名と昨年同様多数の出席があり、大変賑やかな会となった。

葉山理事の司会により、宮川会長の開会の辞についでご来賓の都議会議員　臼井孝様、衆議院議員　石川要三様、都議会議員　林田武様、市町村長を代表して青梅市長の竹内俊夫様より挨拶があった。いずれも医療行政の現状と今後の展望について話され、景気の後退とともに今後の見通しに話が及ぶと皆様声が低くなり明るい話題はないようであった。続いて多摩川保健所長の東海林文夫様のご発声により乾杯し懇談に移った。その際東海林様より、現在問題となっている院内感染の事例に触れられ、保健所との連絡は休日、夜間でも可能であることが再確認された。

日頃お会いし、親しくお話する機会のないご来賓の方々と食べながら飲みながらの和やかな懇談の輪ができ、会も半ばにさしかかった所で本日のアトラクションである女流講談師の田辺鶴女師によるおしゃべりと獅子舞が演じられた。会場内を獅子が舞う姿は新春を飾るにふさわしい光景であった。

しめくくりはビンゴゲームに興じた。葉山理事が自ら選んだ豪華賞品が幸運な方々に引き当てられた。

最後に真鍋副会長による閉会の辞に続いて松原監事による手締めでお開きになった。

西多摩地域は広く、交通の便も悪い所もありますが、今回の会のように数多くの会員が集うことにより会員同士の理解も深まり、医師会活動も活性化されると思いますのでこれからも医師会の行事に多くの会員が積極的に参加していただくことをお願いします。

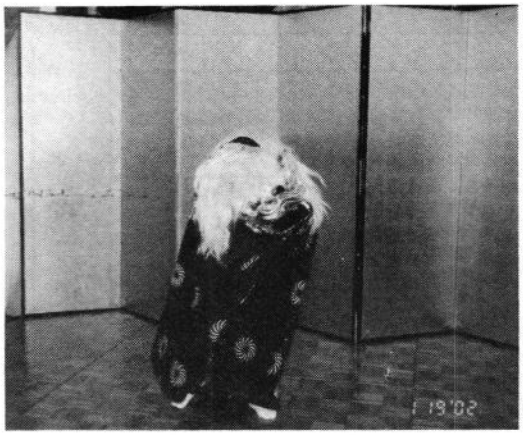
（文責：森本　晉）

開会の辞

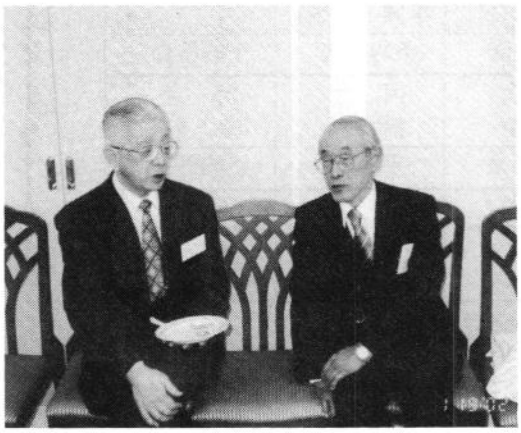
来賓の方々

乾杯!!　多摩川保健所長　東海林様

多数の会員の出席により盛大な会となりました



アトラクション　獅子舞



広報部

公立阿伎留病院　外来部門診療担当医表

平成14年1月1日現在

	月	火	水	木	金	土
内科 1	馬　場	荒　井	矢　嶋	馬　場	菅　野	休診
内科 2	佐　野	堀　井	黒　川	鬼　田	増　田	
内科 3	松　陰	持　丸	★小野・増田	黒　川	伊　藤	
内科 4	平　沼	須　金	佐　野	佐　野	持　丸	
午後診 血液専門外来		馬　場	持　丸	馬　場		
リウマチ科			西成田			
専門外来	神経内科（小野）	循環器　江本（PM）	腎　（蓬田）	糖尿病（藤原）	神経内科　小野　AM HOT　佐野　PM	
血液透析 午前	黒　川	黒　川	松　陰	増　田	鬼　田	
血液透析 午後	黒　川		黒　川		黒　川	
血液透析 夜間	増　田		松　陰		鬼　田	
人間ドック		黒　川		馬　場	馬　場	
小児科 専門外来（午後）	岩　本 北　澤	岩　本 北　澤 乳児検診（予約）	岩　本 北　澤 予防接種（予約）	岩　本 予防接種（予約）	岩　本 北　澤	
外科 1	矢嶋（予約）	矢　嶋	矢　嶋	矢嶋（予約）	堀　井	
外科 2	永　田	堀　井	藤原（形成）	永　田	遠　藤	
整形外科	小谷野 星	星 榮	小谷野 榮	小谷野 星	小谷野 坂　本	
脳神経外科	伊　藤	藤　塚	前　村	伊藤・◆矢崎	山　口	
皮膚科（午後診）	堀　田 予約検査	堀　田 アレルギー外来（早川）	堀　田 凍結療法	堀　田	狩　野	
泌尿器科	朝　岡	仲野谷	朝　岡	朝　岡	朝　岡	
産婦人科 婦人科	森　田	斉藤（1・3・5週） 森田（2・4週）	斉　藤	森　田	斉　藤	
産婦人科 産科	斉　藤	近　藤	森　田	斉　藤	百　村	
眼科	平　岡 渡　邊	山　本 平岡・渡邊（手術）	平　岡	渡　邊 平岡（手術）	渡　邊	
眼科	予約検査	予約検査	予約検査	予約検査	予約検査	
耳鼻咽喉科	河　合 小　嶋	河　合 一　川	河　合 小　野	河　合 鈴　木	河　合 小　野	
耳鼻咽喉科	アレルギー外来	手　術	予約外来	手　術	予約外来	
麻酔科			丸　茂			
歯科口腔外科	山　下	山　下 柳　井	山　下	山　下	山　下	

● 内科診療及び午後診療は、予約を要します。

★ 内科外来水曜日は、小野（1・3・5週）、増田（2・4週）が診察を行います。

◆ 脳神経外科木曜日の矢崎Ｄｒは、午後の診療（専門外来「もの忘れ外来」を含む）となります。

各部だより

学術部 Information

第1回　青梅地区痴呆セミナー
＝医師会生涯教育認定講座＝

日　時：平成14年1月30日（水）午後7時45分～
会　場：青梅市立総合病院　南棟3階講堂
講　師：東京医科歯科大学 精神行動医科学分野　田 中 邦 明 先生

1．はじめに

痴呆とは、一度正常なレベルに達した脳の諸機能が低下し、通常の日常生活を送れなくなる状態である。この原因の一つにアルツハイマー型痴呆（ATD）がある。原因は不明であるが、何らかの機序により神経細胞が変性して死にいたり、正常な脳の機能が営めなくなる。痴呆の有病率は75歳を超えると急激に増加することから、総数100万人以上といわれる痴呆患者数はますます増え続けると予想される。特に ATD は加齢との関連が深く、原因の究明が急がれ数多くの研究が行われている。

2．病態からの診断

ATD を確定診断するためには、脳の病理変化をみる必要がある。主要な病理変化は、老人斑・神経原線維変化・神経細胞の萎縮や脱落などである。このうち老人斑は、疾患特異性が高く、ATD の確定診断に必須のものである。分布は辺縁領域や大脳連合野に多く、一次運動・感覚野、視覚野で少ない。老人斑が ATD に特異的であるため、その形成機序を明らかにすることにより、ATD の原因の一つが解明されるのではないかと期待されている。典型的老人斑は中心にアミロイドの核を持っている。この核の主成分はβ蛋白と命名された物質である。β蛋白はより大きな APP（amyloid precursor protein）という前駆体蛋白に由来する。APP がβ蛋白部分の途中で切断されるとβ蛋白は産生されない。しかし、APP がβ蛋白部分の両端で切断されるとβ蛋白が産生されて細胞外に放出される。さらにこのβ蛋白がα1-アンチキモトリプシン（ACT）やアポEなどの pathological chaperone と呼ばれる物質と作用すると重合化が促進され、アミロイド線維に変化する。このアミロイド線維は不溶性のため、徐々に蓄積して行きアミロイドの核を形成にも関与すると考えられている。これらの仮説から、APP、β蛋白、α1-ACT、アポリポ蛋白 E などが診断的マーカーとして有用ではないかと考えられている。APP のうち、Kunitz 型蛋白分解酵素阻害物質を含む APPI は痴呆の早期に高値を示すという報告がある。また、髄液中β蛋白濃度は65歳未満で発症する早発型 ATD で増加しているとされる。これに対し、髄液中α1-ACT は65歳以上で発症する晩発型 ATD のマーカーとして有用であり、病期が進行しているほど増加

が大きいとされる。さらに、注目されているものとしてアポEがある。アポEには2型、3型、4型などがあるが、このうち4型を持つものは、持たないものに比べてはるかにATDを発症しやすいという報告がなされた。すなわち、晩発型家族性ATDの家系では、アポE4を2個持つものは1個も持たないものに比べ8倍も発症率が高く、発症年齢も若くなるというものであった。その後の研究で、アポEの4型は晩発、早発を問わず、また孤発例においても大きなリスクファクターであると報告されている。

3．画像による診断

1）形態的画像診断

形態的画像は、現在広く普及しているCTおよびMRIで得られるため、検査が容易である。血管性痴呆、正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫、脳腫瘍などとの鑑別に有用である。しかし、他の変性疾患との鑑別には必ずしも有用ではなく、ATDに特異的な所見も必ずしも得られておらず、痴呆の程度と解離することも多い。一般的には次のような特徴が指摘されている。早期にはMRIの前額断で海馬の菲薄化がみられる。また、大脳皮質の萎縮により脳溝の拡大がみられ、脳室も拡大する。これらの所見は経過とともに進行する。進行例では脳室周囲にPVL (CT) あるいはPVH (MRI) とよばれる異常がみられる。

2）機能的画像診断

ATDを確定診断するためには、脳の神経病理変化を確認する必要があるが、これは死後においてのみ可能である。生前においてATDに特徴的な病理変化の分布と程度を測定する上で現在もっとも有用な補助診断法はPETとSPECTである。軽度から中等度の痴呆では、側頭から頭頂における脳循環の低下がみられる。さらに病期が進行すると前頭での低下も顕著となるが、一次運動野・感覚野、視覚野は末期まで保たれている。これらの所見は、ATDの病理変化が側頭葉から始まり、頭頂葉にいたって中等度痴呆を呈し、最終的に前頭葉にもおよぶという病理変化の進展を反映していると考えられる。ATDに特徴的であり、診断的意義が高く他の痴呆との鑑別にきわめて有用である。

4．臨床症状による診断

従来、ATDの臨床症状には特徴がなく、除外診断によらざるをえないとされてきた。しかし、発症様式、初発症状、臨床症状の経過には積極的にATDを指示する一定の特徴がある。

ATDは変性疾患であり、発症や進行が緩徐である。このため発症の時期を特定することは困難である。

初発症状は側頭葉の症状が多い。記銘障害により前向性の健忘がみられ新しい記憶が造れなくなる。知的機能検査では遅延再生の障害がみられる。また逆向性の健忘も加わり、当然憶えているべき古い記憶も再生できなくなる。さらに症状が進行すると、他の高次の皮質機能の障害が加わってくる。失名詞、喚語能力の障害、理解力の低下がみられ、失語が出現する。病変が頭頂葉におよぶと失行がみられ、簡単な作業ができなくなる。人物誤認や視空間失認もみられる。病期が進行し、前頭葉症状が出現すると、人格が形骸化して無為となり疎通性も極端に低下してくる。

一次運動野や感覚野の病理変化は少ないため、神経症候は少なくむしろ徘徊、多動などの

症状がめだつ。病期が進行すると姿勢の異常が見られ、けいれん、ミオクローヌス、筋の固縮などの神経症候が出現するが、なお他の痴呆をきたしうる神経疾患に比べて軽度である。末期には強制把握や失外套症候群を呈し、寝たきり状態になり握屈曲性対麻痺をみる。肺炎や褥瘡が出現しやすくなり、身体合併症で死亡する。50%の生存期間は診断されてから3.4年、発症後8.1年とされている。

5．おわりに

アルツハイマー型痴呆の診断に関して、病態・画像・臨床症状の観点から述べた。ATDの確定診断が病理診断である以上、臨床的にはこれらの観点からできるだけ多くの情報を集めて判断せざるをえない。しかし多くの意欲的な研究の成果により情報を得る手段も年々増えてきている。臨床診断の精度が確実なものになったとき、すなわちアルツハイマー型痴呆の原因が解明されているものと期待される。

地区だより

羽村地区 羽村市医師会新年会

1月11日羽村市医師会の新年会が開催された。会員8名と市役所からの招待者2名（町田課長、森田参事）の計10名が緑ヶ丘のパブ・シュリットに集まった。当初ワイン会の予定であったが、日本酒の希望者も多く、結局、ワイン派と日本酒派が半々となった。新年の抱負や世間話、昔話に花が咲き、忘年会とは違った雰囲気で大いに盛り上がった。

終盤のカラオケ大会は、堤先生の「サントワマミー」で始まった。真鍋先生のソロ、稲垣先生のソロも素晴らしかったが、とくに、松田先生と布施先生のデュエットによる「ラバウル小唄」が圧巻であった。最後は、全員で「青い山脈」の大合唱となった。

結局、予定を大幅にオーバーしてお開きとなった。（横内正利）

理事会報告 ★ Information

12月定例理事会　平成13年12月25日　西多摩医師会館

〔出席者：宮川・玉木・坂本・小机・細谷・石田・唐橋・星野・丸野・横田・葉山・森本・松原・足立〕

【1】 報告事項

1．都医地区医師会長協議会報告（宮川会長）

Ⅰ．都医からの伝達事項

(1) 地区医師会調査研究発表会

平成14年3月7日（木）午後2時

H14.2.6までに、調査研究を行って得た統計資料等を発表する目的で、都医庶務調査係宛FAXで送る。

(2)　全国医療情報システム連絡協議会第18回定例会議

平成14年2月2日（土）・3日（日）

日本医師会館にて、午後2時より開催する。

(3)　自賠責保険研修会実施について

初めての研修会で（都医師会、損保協会、自算会が協賛する）

自賠責保険を扱う医療機関は出席する。

2月21日（木）PM２：00　立川市民会館小ホール

(4)　今冬のインフルエンザ総合対策の推進について

①　インフルエンザ Ｑ＆Ａ の作成・配布。

②　施設内感染防止対策の推進。

③　インフルエンザのインターネットホームページを新たに開設。

④　相談窓口を設置。

(5)　「東京都におけるウイルス肝炎対策報告書」について

１）老人保健法に基づく基本健康診査における肝炎ウイルス検診の導入。

２）保健所における肝炎ウイルス検診の導入。

３）職域における肝炎ウイルス検診の勧奨。

(6)　「都内の病院における禁煙外来等実施状況調査結果一覧」について

都内681病院のうち禁煙外来等実施公表病院は89。西多摩地区では、櫻井病院のみ。

(7)　東京都健康推進プラン21について（概要）

総合目標として「健康寿命の延伸」と「主観的健康感の向上」を設定。

重点分野として「生活習慣病の予防」と「寝たきりの予防」を設定した。

(8)　日本医師会市民公開講座「忍び寄る性感染症　予防と治療」の開催について

H14. 1. 26（土）　PM２：00～４：00 日本医師会館にて行うので参加希望者は医師会まで

(9)　「炭疽菌・狂牛病対策室」情報について

①　炭疽菌等のおそれのある場合の対応について。

②　東京都炭疽対策専門家連絡会の報告について。

(10)　都立学校における学校医等の勤務の充実について

毎月１日以上の勤務が望ましい。学校医執務記録に記入すること。

(11)　医事紛争事件概況について

一年間 125件、多摩地区は 35件（28%）である。

Ⅱ．協議事項

なし

Ⅲ．地区医師会からの報告

港区医師会、H12年度学術講演集発刊。

Ⅳ．その他

1．中医協報告について

診療報酬本体　△1.3％

薬価等　△ 0.96　＋　△ 0.35　＋　0.1　＝　△1.4％
（薬価引下げ分）　（先発カット分）　（材料）

△ 1.3％ ＋ △ 1.4％＝ 合計 △2.7％

2．各部報告

（学　術　部）　1月25日（金）学術講演会。
2月1日（金）東京都医師会講演会（高血圧治療ガイドライン講演会）

3．各地区会よりの報告　（各地区長）

（青　梅）　12月13日（木）忘年会。
（福　生）　12月13日（木）忘年会。
（羽　村）　12月18日（火）忘年会。
（あきる野）12月13日（木）忘年会。
（瑞　穂）　欠席。
（日の出）　欠席。

4．その他

なし

【2】　報告承認事項

1．入会会員について

今回なし

【3】　協議事項

1．新年賀詞交歓会について

余興　女流講談師による　小噺（田辺鶴女　師匠）

会員通知

○会報
○組合管掌の健康保険被保険者証の更新について
○産業医研修会（東京都医師会前期 3/9, 10）
○　　〃　　（城北ブロック 2/16）
○国保診療報酬決定通知書の変更について
○ターミナル・ケア研修会開催のご案内
○2002産業保健フォーラム　IN　TOKYO
○第1回青梅地区痴呆セミナー　(1/30)
○宿日直表（青梅）

医師会の動き

医療機関数　１９７　病　院　２９
医院・診療所　１６８
会　員　数　４３０　Ａ会員　１９２
Ｂ会員　２３８

会議
1月11日　在宅難病調整委員会
21日　会報委員会
22日　定例理事会

講演会・その他
1月8日　保険整備会
19日　新年賀詞交歓会
25日　学術講演会
演題：「脳梗塞の診断と治療」
－最近の話題と病診連携に関して－
講師：東京医科大学
八王子医療センター
老年病科部長
金谷　潔史　先生

役員出張
1月10日　西多摩歯科医師会新年会
18日　都医地区医師会長協議会・懇親会

お知らせ

事務局より　お知らせ

平成14年3月（2月診療分）の

保険請求書類提出

3月8日（金）

―― 正午迄です ――

法　律　相　談

西多摩医師会顧問弁護士　鈴木禧八先生による法律相談を毎月第二水曜日午後二時より実施しておりますのでお気軽にご相談ください。

◎相談日　**2月は13日（水）**
3月は13日（水）の予定です。
◎場　所　西多摩医師会館和室
◎内　容　医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・刑事に関するどのようなものでも結構です。
◎相談料　無料（但し相談を超える場合は別途）
◎申込方法　事前に医師会事務局迄お申込み願います。
（注）先生の都合で相談日を変更することもあります。

表紙のことば

『バラ』

庭に咲いたバラです。花屋の物より生気が張り、個性を主張して、咲き様も良いように思いました。

バックを暗くした部屋で、ガラス越しの自然光で、絞り45、20秒、4×5インチのシートフィルムで撮りました。

稲垣壮太郎

あとがき

冬が来ると思い出すことば、「冬来りなば、春遠からじ。」

これは敗戦直前、爆撃で廃虚となった下町の、崩れ残った小学校の後片付けに動員された時、教室の壁に見つけた落書きでした。空襲で焼け出された人が書き残したのでしょう。当時の中学生の胸にもジーンと来ました。57年後の今も、世界のあちこちで爆弾が落とされ、後片付けする人の姿を新聞紙上に見かけます。あの人達は、どんな気持で後片付けしているのでしょうか。（あの時の後片付けは、某軍需産業が製品を爆撃から隠す場所を作るためであったそうです。）

石井好明

社団法人　西多摩医師会　平成14年2月1日発行

会長　宮川栄次　〒198-0044 東京都青梅市西分町3-103　TEL 0428 (23) 2171・FAX 0428 (24) 1615

会報編集委員会　森本　晉
石井好明　神尾重則　片平潤一　込田茂夫
清水佐和道　高水松夫　田村啓彦　細谷純一郎

印刷所　マスダ印刷　TEL 0428 (22) 3047・FAX 0428 (22) 9993

健康の輝きをひろげる。

株式会社 ビー・エム・エル

BML

本社・〒166 東京都杉並区高円寺南1-34-5 TEL.03-3316-0111(大代表)
総合研究所・〒350 埼玉県川越市的場1361-1 TEL.0492-32-0111(代)